

組織破壊を目的とした脱退を許さない声明

11月14日、J R 東海労本部事務所に、薮秀一、田村浩彰、森下暢紀の3人が訪れ突然脱退届を提出した。脱退の理由は、「J R 東海労はJ R 総連と違う方向に行ってしまった」「J R 総連と共に進む」と言っていた。

また、静岡出身の新幹線地本組合員が脱退を表明している。

私たちJ R 東海労は、労働条件の改善、職場環境の改善、また出向先においても団体交渉を開催し、労働条件の改善を勝ち取り、労働者の権利と利益を守るために闘ってきた。また、関西サービックでは心ある仲間達と共にJ S 労を結成し、現在も労働条件改善の闘いを続けている。

このような職場で働く労働者の権利と利益を守るための闘いを否定して、J R 総連近畿地方協議会の津崎議長の報告書に見られるように、真実を捻じ曲げ、組合員を騙し、私たちを「組織破壊者」にでっち上げ、「除名」しようとしているのが現在のJ R 総連指導部である。「違う方向に行ってしまった」のはJ R 総連であり、あまりにも会社との協調関係を重視し、民同ダラ幹に変質してしまったのである。

脱退届を提出した3人は、労働運動に何の展望もなく「よくする会」というマル生当時の瓜二つのやり方で、生産性向上と省力化を目的とする会社の業務改革をスムーズに進行させていく手助けをするものでしかない。J R 東海労を破壊せんとする輩に扇動され、J R 東海労の組織に傷を付け、破壊するために脱退の意思表示をしたのである。今後については「分からない」と答えたが、脱退を表明した者は「森下を支える」「総連と共に」とも言っている。J R 総連柳副委員長の「心あるJ R 東海労組合員と共に」や、山口委員長の「東海労組合員を除名するわけではない」という発言に見られるように、J R 総連派の新労組を立ち上げ、そこにJ R 東海労を批判している一部OBを引き連れていくシナリオが見え隠れしている。明らかにJ R 総連の指導の下に画策された組織破壊攻撃といえる。誰が組織拡大をしてきたのか、そして誰が会社と闘い労働条件の改善をしてきたのか。

脱退表明した者たちよ目を覚ませ！

私たち静岡地本は、闘う労働運動破壊を目的とした脱退策動に断固抗議する。脱退は許さない！

2024年11月19日

J R 東海労静岡地方本部